

FILTER関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

FILTER関数の基本をおさらい

FILTER関数の基本をおさらい

FILTER関数は、指定した範囲から「条件に一致するデータ」をすべて取り出す、非常に強力な関数です。
(Excel 2021 / Microsoft 365 / Googleスプレッドシートで利用可能)

=FILTER(配列, 含む, [空の場合])

引数	内容
① 配列	どこから取り出すか。(例: A2:D10 の表全体)
② 含む	どの条件で絞り込むか。(例: B2:B10="東京")
③ [空の場合]	(省略可能) 一致するデータが無い場合に何を表示するか。(例: "該当なし")

 **ポイント:** VLOOKUP関数が「最初に見つかった 1件」しか返せないのに対し、FILTER関数は「条件に合うもの全部」を一覧で返せるのが最大の違いです。

【最重要】

複数条件（AND）はアスタリスク（*）で

【最重要】複数条件（AND）はアスタリスク（*）で

「支店が『東京』かつ売上が『100以上』」のように、複数のAND条件で絞り込む場合は、条件式を アスタリスク（*）で掛け合わせます。

構文: =FILTER(配列, (条件式1) * (条件式2), [空の場合])

ポイント:

- 各条件式を必ず括弧 (())で囲みます。
- Excelは TRUE=1、FALSE=0 として計算します。
- * (掛け算) を使うと、両方が TRUE (1*1=1) の場合のみ TRUE となり、AND条件が完成します。

具体例: B列が「東京」で、かつ C列が100以上のデータを、A～D列から抽出

=FILTER(A2:D10, (B2:B10="東京") * (C2:C10>=100), "該当なし")

【実践】 複数条件（OR）はプラス（+）で

【実践】複数条件（OR）はプラス（+）で

「支店が『東京』 または 支店が『大阪』」のように、複数のOR条件で絞り込む場合は、条件式をプラス（+）で足し合わせます。

構文: =FILTER(配列, (条件式 1) + (条件式 2), [空の場合])

ポイント:

- 足し算(+)を使うと、どちらかが TRUE (1+0=1) または両方が TRUE (1+1=2) の場合、結果が 0 以外 (=TRUE扱い)となり、OR条件が完成します。

具体例: B列の結果が 0 以外の行、つまり「東京」または「大阪」のデータを、A～D列から抽出

```
=FILTER(A2:D10, (B2:B10="東京") + (B2:B10="大阪"), "該当なし")
```

よくあるエラー対策と応用テクニック

よくあるエラー対策と応用テクニック

FILTER関数を使いこなすための「コツ」を紹介します。

テクニック	内容と対策
エラー対策①「#CALC!」	原因：一致するデータが1件も無かった。 対策：3番目の引数 [空の場合] を必ず指定しましょう。 (例: ..., "該当データなし")
エラー対策②「#SPILL!」	原因：抽出結果を表示したい範囲に、すでに入力済みのデータや文字列がある。 対策：数式を入力するセルの「下と右」を、空白（クリア）にしてください。
応用テクニック「部分一致」	課題：「〇〇を含む」という曖昧い検索を実行したい。 対策：ISNUMBERとSEARCH関数を組み合わせると可能です。 例：B列に「東京」という文字を含むデータを抽出 =FILTER(A2:D10, ISNUMBER(SEARCH("東京", B2:B10)), "該当なし")

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。